

懐かしい
歌とともに
私の思い出

「汽車ポッポ」

作詞・富原 薫

作曲・草川 信

猫柳が芽を吹き、夏は川で水遊びをして遊びました。秋は紅葉がきれいでした。
の1学期の後、一家で東京に戻ることにになりました。父は長年、住んでいた下町でもう一度、仕事をしなかったのだと思います。ちょうどこの時期、ポッポと歌いました。
いくはなむけでしたよ」と、声を掛けられた。Y先生は音楽の先生でもあったので、落成式では先生のピアノも、男声合唱団で合奏に合わせ、「汽車ポッポ」を奏しんでいます。
（石井久一・71歳）

私は終戦翌年の1946(昭和21)年3月、母の故郷である長野県小県郡大門村(現・長和町)で生まれまし

た。子どものころは、今より四季がはっきりしているように感じられました。冬は雪が降り積もり、春は川辺に

転校直前、式典で独唱

父は東京の本所で下駄(げた)の製造をしておりましたが、戦争が激しくなりました。終戦後もしばらくそこにどまり、私は大門小に入学しました。しかし、2年生

大門小に講堂が建てられ、落成式が行われ、担任のY先生から、「石井君、『汽車ポッポ』を歌ってみなさい」と話がありました。東京へ引っ越して、恥ずかしさで顔は真っ赤になり、最後まで歌えなかったか記憶にありません。それでも学校からの帰り道、式に出席した近所のおじさんから、「歌、良かったよ」と、声を掛けられました。
【原稿募集】
あなたにとつての思い出の曲にまつわる、両親や兄弟姉妹、友人とのエピソードなどを600字以内にとめて編集部までお寄せください。採用された人には薄謝を進呈いたします。(※電話番号の記入もお忘れなく)